

講義コード	14D2120000
講義名称	日本経済史Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Economic History of Japan Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1480
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
見浪　知信

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	1900年代から、現代にかけての日本経済のあゆみを、通時的に講義します。本講義では、日本経済について統計データや図表もとに具体的に説明します。戦争や高度成長・福祉国家の達成の過程を検討するとともに、現代の日本経済を歴史的な観点から説明します。
学習（到達）目標	①　日本経済について、基本的な知識を習得し、その展開を説明することができる。 ②　歴史的な知識および視野をもとにして、現状を捉えることができる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス 現代経済をどう捉えるか
第2回	両大戦間期① 第一次世界大戦と輸出ブーム
第3回	両大戦間期② 1920年代における慢性不況
第4回	両大戦間期③ 1920年代における経済成長
第5回	両大戦間期④ 世界大恐慌と日本経済
第6回	両大戦間期⑤ 高橋財政と景気回復
第7回	戦時・戦後期① 戦時経済体制の展開
第8回	戦時・戦後期② 戦時経済体制の崩壊
第9回	戦時・戦後期③ 戦時下の民衆生活
第10回	戦時・戦後期④ 占領政策と戦後改革
第11回	戦時・戦後期⑤ 経済復興への道
第12回	高度成長期 高度成長と消費社会の成立
第13回	安定成長期 貿易摩擦と経済大国化
第14回	期末試験
第15回	学期の振り返り、まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	70%
レポート	30%

その他	
-----	--

成績評価の方法（コメント）	この講義の成績は、第14回の講義時に実施される期末試験、および講義中数回出される小レポートから算出される。
---------------	---

参考文献	タイトル：『日本経済史：近世から現代まで』、著者：沢井実・谷本雅之著 出版社：有斐閣、ISBN：9784641164888、備考：2016年出版
事前および事後学習の指示	授業前に、授業レジュメを印刷し、目を通しておくこと。 授業後に、授業レジュメの内容を復習し、小レポートおよび期末試験に向けて学習すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：日本経済史) 02～10生読替

講義コード	14D2720000
講義名称	日本近代史Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	History of Modern Japan Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	HIST1410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
島田　克彦

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート
---------------	---

講義・演習概要	「世界史の中の近代日本」というテーマの下、第一次世界大戦から第二次世界大戦に至る時期の歴史について講義を行います。 ヨーロッパでの第一次大戦勃発は世界史上の画期となりました。「国家総力戦」の思想が広まる時代にあって、人類の英知は「戦争違法化」の潮流を生み出していきます。しかし、帝国主義諸国がみずからの植民地支配を温存したことが世界史に矛盾をもたらし、新しい戦争につながっていきます。 このような世界史の中で、東アジアの一角を占める日本はどのように行動していったのでしょうか。授業では、矛盾を深めていく世界史の中で日本が果たした役割と責任について考えていきます。
学習（到達）目標	二つの大戦を生み出した世界史の中で、日本が果たした役割を理解すること。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	近代日本の歩みと戦争　―開講にあたって― 第 1 回目に授業の進め方、課題、評価の方法等について説明をするので、必ず出席すること。
第2回	第一次世界大戦と「21カ条要求」
第3回	第一次世界大戦期の東アジアにとシベリア干渉戦争
第4回	第一次世界大戦の集結と東アジアの民族運動
第5回	国際連盟とワシントン体制　―第一次大戦後の世界―
第6回	「戦争違法化体制」の構築
第7回	中間まとめ
第8回	関東大震災　―大日本帝国の大災害―
第9回	近代工業都市大阪の成立と社会変動
第10回	1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争（1）　―満州事変―
第11回	1930年代のヨーロッパとアジアにおける侵略戦争（2）　―枢軸国陣営の形成―
第12回	日中戦争の勃発
第13回	第二次世界大戦からアジア太平洋戦争へ
第14回	第二次世界大戦の終結と戦後世界
第15回	全体のまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	55%
その他	45%

成績評価の方法（コメント）	成績評価の配分は、毎回の確認・まとめ課題45%、レポート（2回を予定）55%。 毎回の確認・まとめ課題は、授業への出席とセットで評価します。 レポートは2回とも提出すること。1回の提出がなければ単位を認めません。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.						使用しない。講義ごとにレジュメと参考資料を配布する。

参考文献	※講義の中で適宜紹介します。 江口圭一『体系日本の歴史14 二つの大戦』小学館、1993年（ライブラリー版） 木畑洋一『第二次世界大戦 一現代世界への転換点』吉川弘文館、2001年（歴史文化ライブラリー） 加藤陽子『戦争の日本近現代史』講談社、2002年 小林啓治『戦争の日本史21 総力戦とデモクラシー』吉川弘文館、2008年 伊香俊哉『戦争の日本史22 満州事変から日中前面戦争へ』吉川弘文館、2007年 吉田裕・森茂樹『戦争の日本史23 アジア・太平洋戦争』吉川弘文館、2007年 荒井信一『空爆の歴史 一終わらない大量虐殺』岩波書店、2008年（新書） 宮地正人監修『日本近現代史を読む』新日本出版社、2010年 山室信一『複合戦争と総力戦の断層―日本にとっての第一次世界大戦』人文書院、2011年 日中韓3国共同歴史編纂委員会『新しい東アジアの近現代史』日本評論社、2012年 木畑洋一『20世紀の歴史』岩波書店、2014年（新書） 河島真『日本近代の歴史5 戦争とファシズムの時代へ』吉川弘文館、2017年
事前および事後学習の指示	各自作成する講義ノートと、配布される講義レジュメにしたがって復習すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：日本近代史）02～10生読替（E・CBCC・L・J・文学部生読替）

講義コード	14D6510000
講義名称	コンピュータ論Ⅰ　＜秋＞
科目英文名	Computer and Social Information Systems Ⅰ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	0ICT2400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
藤間　真

授業形態	講義	アクティブラーニング	実務経験のある教員による授業① ソフトウェアハウスでの実務経験を踏まえて社会とコンピュータの関係について講義を行う。
------	----	------------	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	ここ数年「人工知能」という言葉がマスコミをにぎわしていることからわかるように、今日のコンピュータは、「計算」を直接的に目的とはしない用途でますます利用されており、計算する道具からデータ処理の道具、そして情報を引き出し整理し分析した上でその結果を分かりやすく提示する道具、色々なモノにくみこまれて制御する道具になりつつある。 何故コンピュータは今日のような展開ができたのであろうか。このことを、人間とコンピュータとの違いや人間から見たコンピュータという存在という視座から俯瞰することで明らかにし、より社会生活に役立つコンピュータの将来をどのように展望すべきかを考える。 第1回で、講義の内容に関する重要なことを扱うので、欠席した場合の不利益はかなり大きなものとなる。受講を検討している諸君は必ず第1回に出席されたい。 なお、最新の状況を反映させるため、一部予定を変更することがありうる。詳細は、講義中にアナウンスする。
学習（到達）目標	本講の目的は、人間とコンピュータとの違いや人間から見たコンピュータという存在という視座から、コンピュータに関する幅広い知識を伝授すると共に、コンピュータと協同する存在という観点を中心に深い考察のきっかけを与えることである。

講義・演習計画

回	内容
第1回	第一回はオリエンテーションと基礎知識の確認を行います。 履修する予定の人、履修するか迷っている人は、視聴することを強く推薦します。 第一回のアドレスはM-Portで提示予定ですが、わからない人は担当者までメール(m.tohma@andrew.ac.jp)で問い合わせてください。
第2回	思考と機械－チューリング・テストと行動主義
第3回	思考と機械－チューリング・テストとサールの部屋
第4回	第三世代AIを支える技術－機械学習
第5回	第三世代AIを支える技術－言語学の応用
第6回	思考と機械－中間まとめ
第7回	コンピュータの特性と人間の特性
第8回	特性を支援するコンピュータ
第9回	自己の特性に合わせたコンピュータの調整
第10回	コンピュータと情報の組織化
第11回	コンピュータによる表現－音声と画像の表現
第12回	コンピュータによる表現－文字の表現

第13回	コンピュータによる表現—文字のコード化
第14回	コンピュータによる表現—整数の内部表現
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	80%
その他	20%

成績評価の方法 （コメント）	レポート：80％ 授業への積極的な参加：20％ いくつかの課題に関して、レポートを課します。 本講義の目的の一つが、自習するには難しいことを講義形式で伝えることにありますから、レポートの内容は、講義内容を踏まえたものとなります。その意味での「授業への積極的な参加」20％です。詳細は、オリエンテーション時に説明します。
-------------------	---

参考文献	新井紀子著、『コンピュータが仕事を奪う』、日本経済新聞出版社、2010 松田卓也著、『2045年問題：コンピュータが人類を超える日』、廣済堂新書、 2013 その他は、授業中に指示します。
事前および事後学習の指示	事後学習として求める復習のための労力が他の講義に比べて多いため、事前学習（予習）は特に要求しません。 言い換えると、きちんと復習することが単位取得の前提となります。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	人工知能、コンピュータ、情報通信技術、
備考(管理者用)	(旧：コンピュータ論) 02～10E・CBCC生読替

講義コード	1520230000
講義名称	国際関係論B　＜秋＞
科目英文名	International Relations B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2410
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
松村　昌廣

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。
	その他
	なし

講義・演習概要	前期で「国際関係論A」を履修したことを前提に、各論レベルで国際安全保障、国際政治経済、国際秩序の現状と課題を初歩的に考察します。「A」と同様、具体的な事例を取り上げながら、ベーシックなことから、お話しします。また、難解にならないように図やメモを使って丁寧な説明を心がけます。
学習（到達）目標	毎日、テレビや新聞の国際問題に関するニュースに触れていても、よく分からないことが多いでしょう。ニュースは断片的で、十分な説明もありません。ちゃんと理解するには体系的で理論的な準備が必要です。このため、この講義は国際関係論Aで履修した理論を駆使して、時事問題に具体的に触れながら、考察を深めていきます。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	各論　軍事的側面 1－1）安全保障
第2回	1－2）紛争
第3回	1－3）まとめ
第4回	経済的側面（貿易・金融・投資・技術・開発） 2－1）－（1）市場機能中心主義　（金融）
第5回	2－1）－（2）市場機能中心主義（貿易）
第6回	2－1）－（3）市場機能中心主義（開発・技術）
第7回	2－2）国家機能中心主義
第8回	2－3）資本形成中心主義
第9回	2－3）まとめ
第10回	秩序づけのための組織化側面 3－1）国際法
第11回	3－2）国際機構
第12回	3－3）国際レジーム
第13回	3－4）まとめ
第14回	4－1）冷戦後の国際構造
第15回	4－2）日本の国際行動とその将来

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	講師が設定した問題と手順で、受講生に、講義で扱った内容を基に論述式の持ち帰りのレポート試験（3000字～4000字）の作成・提出を求めます。十分な時間（恐らく週末を含め7～10日以上）の期間を設定し、受講生が自分でとった講義ノートその他資料を見ながら、じっくり考えて作成できるようにします。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	ポール・R・ピオティ、マーク・V・ウェッセルズ	国際関係論　－　現実主義・多元主義・グローバリズム				（絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる）
2.	ロバート・ギルピン	世界システムの政治経済学			東洋経済新報社	（絶版であるので、学生には入手可能な措置をとる）

事前および事後学習の指示	講義に合わせて、テキストの該当部分を予習・復習で読解すること。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：国際関係論）02～19E・SS・SW・B・L・J生読替☆国際関係論Aを修得した者のみ履修可能

講義コード	1586230000
講義名称	民俗学B　＜秋＞
科目英文名	Ethnology B
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	ANTH3400
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
大野　啓

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト
---------------	--

講義・演習概要	民俗学の具体的な事例研究について、いくつかのテーマを設定し、解説する。その際に、伝統的な民俗学での理解と現時点での民俗学での解釈の差などについても解説をしていく。
学習（到達）目標	1.講義中に解説した用語を理解することができる（必須） 2.講義の内容を理解して説明することができる（必須） 3.民俗学がどのような学問的特性を有しているのかを講義中のテーマから考え、説明することが出来る

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンスー民俗学とはどのような学問なのか
第2回	葬送儀礼の形式の変化
第3回	儀礼の意味・共同体からみた意味と家族からみた意味
第4回	葬送の簡略化と社会の変容
第5回	伝統的な家・多様な家の形態
第6回	近代の家制度と家
第7回	近代家族の生成と家
第8回	家の変容と社会・文化
第9回	民俗学における家研究の可能性
第10回	年中行事と社会
第11回	正月儀礼について
第12回	旧暦の正月から新暦の正月へ1　生活の在り方と暦の意味
第13回	旧暦の正月から新暦の正月へ2　「近代家族」と共同体の葛藤
第14回	生活文化としての正月
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	60%

その他	40%
-----	-----

成績評価の方法 (コメント)	テーマごとにレポートの提出を求める（合計3回）。それぞれに20%の成績評価の割合を配分する。したがって、2回以上のレポートの提出が必須となる。 講義後に授業内容に関する質問を行ない、それに対する解答に評価を加える。講義後の質問に対しての解答が質問実施回数の3分の2未満の者は、実質的に受講していないものとして、レポートをすべて提出したとしても、単位取得の対象外とする。
-------------------	---

参考文献	市川秀之／中野紀和ら著『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房 八木透編『新・民俗学を学ぶ』昭和堂
事前および事後学習の指示	講義中に指示した参考文献などに目を通すこと。 また、講義内容で理解できない用語などがある場合には、『日本民俗大辞典』などで調べること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	民俗、近代化、伝統、家族、儀礼
備考(管理者用)	(旧：民俗学) 02～17 L 生読替

講義コード	1A10470000
講義名称	世界の市民-科学と女性の関係を考える　＜秋＞
科目英文名	World Citizen-Women in Science
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
尾鍋　智子

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 その他 なし
---------------	--

講義・演習概要	本学の教育目標である世界市民とは何かを考えるにあたり、本講義では近年急速に研究が進みつつある科学と女性との関係を取り上げたい。まず問題点を確認することからはじめ、つぎにケーススタディーとして身近な日本の例から検討をはじめよう。さらに徐々に海外の例へと視点をうつし視野をひろげることが目的である。その過程で、女性と科学の関わり方について社会や文化の相違は顕著にあるのかなど、さまざまな論点を探る。社会を分析する視点として、科学と女性の関係に焦点をおき、多文化理解へのゲートウェイとする。
学習（到達）目標	社会における科学と女性の関係をより深く理解し、個々の社会の特徴をとらえ、世界市民的視野をもつことができる。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	コース説明及びイントロダクション
第2回	「女性は数学が苦手」という言説について
第3回	生物学と津田梅子(1864-1929)
第4回	日本初の女性理学博士保井コノ(1880-1971)
第5回	色素研究の化学者黒田ちか(1884-1968)
第6回	江戸時代の和算と女性『算法少女』
第7回	まとめと試験 1 （論述試験1000字）
第8回	宇宙計画と女性とNASA
第9回	NASA黒人数学者キャサリン・ジョンソン(1918-2020)
第10回	天文学を仕事としたキャロライン・ハーシェル(1750-1848)
第11回	ハーバード大学天文台助手アニー・ジャンプ・キャノン （1863-1941）
第12回	数学者・理論物理学者エミー・ネーター （1882-1935）
第13回	核分裂を発見した理論物理学者リーゼ・マイトナー(1878-1968)
第14回	DNA構造の発見ロザリンド・フランクリン(1920-1958)
第15回	まとめと試験 2 （論述試験1000字）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	
その他	

成績評価の方法（コメント）	2回の本格的論述試験(各1000字程度)で成績が決まるため、あらかじめ段落を適切に用いた論述の訓練をし、書き慣れておくことがのぞましい。 詳細については初回に説明するので必ず出席すること。 毎回出席が原則。5回以上欠席すると評価の対象外となる。ただし公認欠席は除く。15分以上の遅刻を3回した場合1回の欠席としてカウントする。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	尾鍋智子	女性科学者とジェンダーバイアスの歴史（仮題）	大学オンライン販売	987-4-87259-861-2	大阪大学出版会	第一回授業までに必ず入手すること

参考文献	適宜指示する
事前および事後学習の指示	教科書を授業前後に読み、予習復習をすること。（事前学習30時間　・事後学習30時間）
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
キーワード	科学、ジェンダー研究
備考(管理者用)	（旧：世界市民-科学と女性の関係を考える）14～19生読替

講義コード	1C00170002
講義名称	文学〔2〕-説話文学を中心に 02<秋>
科目英文名	Literature－Focusing on Folktales
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	LANG1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
南郷 晃子

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート 小レポート/小テスト
---------------	---

講義・演習概要	「説話」とは、口承（口伝え）や書承（書いて伝えられること）で伝えられた、短い話とされます。すなわち、あるモチーフや物語の構造が受け継がれていくのです。説話世界は現代にまで続く、世界認識の一部を作っています。この講義ではそのような説話の世界へと、古文を味わいながら没入しようと思います。説話を中心にしますが、神話や歌舞伎などからも関連する要素を読み込み、多様な作品に触れる場にします。基本的には少し「不思議」な物語を扱い、宗教的・文化的な背景についても学んでいきます。日本の古典文学作品を扱います。
学習（到達）目標	まずは古文の読解に馴染みを持つ。そのうえで説話についての知見を得るとともに、説話を通じて、日本の社会文化の基層について見通しを持つことができるようになる。最終的には得た知見を通じて、日本文化について構造的に捉えることができるようになることを目指す。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	イントロダクション
第2回	記紀神話の世界：はじまりの物語
第3回	風土記の世界：出雲国風土記
第4回	日本霊異記の世界：祭祀と説話
第5回	今昔物語集：鬼と人と京都
第6回	宇治拾遺物語：昔話と説話
第7回	平家物語：語り物文芸の世界
第8回	太平記：「歴史」を考える
第9回	御伽草子の世界
第10回	近世説話の世界－諸国百物語から
第11回	版本のインパクトと妖怪
第12回	近世演芸をみる：歌舞伎、浄瑠璃
第13回	古典文学と近代文学：再創作を考える
第14回	古典とアダプテーション：アニメ、ポップミュージックから
第15回	まとめとテスト

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	
その他	50%

成績評価の方法（コメント）	◎試験は記述式で行います。 ◎「その他」について ・小テスト2回 1回10％×2回→20％ ・毎授業で行う復習課題→30％ ・授業内求めるコメントを授業評価において参照することがあります。 ※小テストは抜き打ちで行います。ChatGPTなど生成AIの利用が認められた場合は点数をつけません。5回以上欠席した場合は授業評価ができないため単位を出せません。こちらで指示したとき以外で携帯電話を触っている場合は授業を履修する意思がないものとみなします。
---------------	--

参考文献	小峯和明『説話の森 中世の天狗からイソップまで』岩波現代文庫、2001年 兵藤裕己『王権と物語』岩波現代文庫、2010 年
事前および事後学習の指示	授業で配布したレジュメを使い復習をすること。また授業内で紹介する関連文献を読むこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：共通教養特別講義－説話文学を中心に) 02～19生読替

講義コード	1P41105001
講義名称	人権論＜秋＞
科目英文名	Human Rights
開講責任部署	人間教育学部 人間教育学科
代表ナンバリングコード	000GE116
単位数	2.0
時間割	秋学期: 木曜日 3 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
須郷 紳弘

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 障がい児・者施設での勤務経験を有する者がその経験を活かして人権，倫理等の概要について解説する。
------	----	--

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)	プレゼンテーション(発表)

到達目標	* 人権尊重などに係わる基本的な考え方などを習得する。 * 身近な事例等を通して理解を深める。 * 倫理，人権をテーマとする学びを通して，社会人として求められる人間力を高めていく。
授業概要	本授業では，人権等に関する基本的な考え方などを学ぶ。また，意思決定，マイノリティ，多様性などを軸に生命倫理などの各種事例を検証し，社会人としての必要な資質を養う。また，グループ討議などの活動を通して，自己理解，他者理解を深めていく。
授業計画	1. オリエンテーション，障害者の権利条約と成年後見制度 2. 意思決定支援の方法 3. 意思決定を拒否する人への支援 4. 愚行権と意思決定支援 5. 臓器移植と意思決定支援（１） 6. 臓器移植と意思決定支援（２） 7. 出生前診断などについて考える 8. 人間とは何かについて考える（パーソン論など） 9. ALSなどについて考える 10. インフォームド・コンセントについて考える 11. アファーマティブ・アクションなどについて考える 12. 人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（１） 13. 人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（２） 14. 人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（３） 15. 人権，倫理などをテーマとした教材を研究する（４），まとめ
教科書	授業中に適宜紹介する
参考書	授業中に適宜紹介する
評価方法	授業への参加度（20％） 授業中に毎回作成してもらうレポート（80％） 授業への参加度は，個々人の発言内容，授業態度などを評価する。 レポートは，毎授業に作成してもらう予定。内容とともに，誤字脱字がないか等についても評価する。文字数については，授業ごとに指定する。
既修条件	なし